

編 集 後 記

- ☆ 『参考書誌研究』の編集のねらいはどこにあるのか、そういう基本的な問題が実は未だに編集委員の間にある。一体図書館のレファレンス・サービスとは何か、という問いは、創刊号巻頭で松下部長から発せられたものであるが、問いが完全に答えられた時、すでにその仕事は無用のものとなるように、レファレンスの本質を問い続けることが、われわれの任務であるかもしれないし、そして本誌もその模索のための強力なテコとなることを願っているといつてよからう。
- ☆ そのために毎号何か主題を設けて、特集でないまでも、ある特徴をもった号にすることも考えている。本号も、外国の主要図書館の目録史の研究をとりあげ、フランス国立図書館を前号に続いて松本、福田（旧姓木村）両氏に、ブリティッシュ・ミュージアムについては熊田、安江両氏にお願いした。後者のパニッツィの活動を原資料により紹介したものは、非常に珍しいのではあるまいか。次号は米国議会図書館をとり上げる予定である。
- ☆ 住谷氏の東京裁判記録の紹介、解説は内容的に優れた論説であるのみならず、書誌紹介のひとつの典型として多くの方に読んでいただきたい。
- ☆ 館外からの寄稿は毎号数編を予定しているが、本号も貴田氏、俵氏、丸山氏にお願いして貴重な原稿をいただいた。事例・出版ともに今後追求すべきものである。
- ☆ この他特殊コレクションの紹介を毎号続けているのが、当方の手違いや紙数の関係で今回は見送らざるをえなかった。せっかくお願いしておきながら失礼したことを深くお詫びする。
- ☆ また頁数の関係で一部活字を小さくしたのもあるが、これもご寄稿いただいた方々とはもとより、読まれる方々にもご不自由をおかけして申し訳ない。しかし反面それだけ優れた原稿が数多く集まっていることでもあり、編集委員としてはうれしい苦しみといつてもいいかもしれない。
- ☆ 編集委員に多少変更があったが、現在の委員はつぎの通りである。安積鋭二（経済社会課）中田吉信（一般参考課）伊藤松彦（同）朝倉治彦（同）大滝則忠（同）山内育男（人文課）山本武彦（法律政治課）田中隆子（科学技術課）中林隆明（アジア・アフリカ課）田中克行基（索引課）。
- ☆ 次号は9月中に発行の予定である。本誌についてご感想なりご意見をいただければ幸いです。（安積）

参考書誌研究 第7号 昭和48年5月31日発行

編 集 国立国会図書館参考書誌部

発 行 国 立 国 会 図 書 館

東京都千代田区永田町1の10の1（郵 100）

電 話 581—2331（代）

印 刷 株式会社 第一 印 刷

本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜すいして転載されるばあいには、事前に参考書誌部一般参考課へ連絡してください。